

平成 31 年度 事業計画書

公益社団法人 日本河川協会

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 2020 年 3 月 31 日

日本河川協会は、公益社団法人としての役割を適切に果たしていくべく、河川に関する情報の交流と知識の普及、安全かつ快適で自然豊かな河川を実現するための必要な調査・研究並びに河川整備及び関連諸活動への支援を柱として、引き続き事業展開と内容の充実を図ってまいります。

また、会員（地方公共団体等、個人、企業・法人）の入会を促進し、河川に係る人的・組織的ネットワークの強化に努めます。

1 河川に関する新たな知見や情報などの調査・資料収集を行い、広く一般に成果を公表する事業【調査事業】

(1) 「河川文化を語る会」の開催

「河川文化を語る会」を各地で開催します。
その実施に当たっては、内容をさらに充実させるとともに、参加者を含む意見交換の場ともなるように努めます。



講演風景

(2) 地球温暖化適応策に関する調査、資料収集

地球温暖化適応策に関する基礎的な資料収集を行います。日本学術会議や学会等における水災害適応策に関する活動に参画し、その一環として、昨年西日本豪雨災害等も踏まえつつ、大規模氾濫減災協議会等の活動を支える科学技術研究に焦点を当て、課題や問題点の把握に努めます。

また、海面上昇や耐水性建築技術などに関する研究のあり方について検討します。

さらに、各地域間で情報交換・情報共有ができるような場づくりに向け、必要な支援策について検討を進めます。

(3) 月刊誌「河川」の発刊

月刊誌「河川」は昭和初期から現在までの、その時々の河川事業・河川行政の歴史や社会の変遷を知る貴重な資料として、行政関係者、研究者、学生、一般の方などに広く活用され、高い評価を得ています。

昨年度に建設産業に携わる河川技術者の思いを綴る「うちの川ファン」や、河川にまつわる話題をユーモラスに紹介する「川の小ネタ」などのコーナーを新設しましたが、平成31年度においても内容の一層の充実に向けて努めていきます。



月刊誌「河川」

＜平成31年度の特集テーマ＞（予定）

- 「平成31年度予算」(4月)、「大河川の歴史(第10回)～富士川・天竜川～」(5月)、
- 「技術の継承と発展－土砂災害対策の観点から－」(6月)、
- 「10年を迎えた、かわまちづくりの今後の展望」(7月)、
- 「海岸法改正20年」(8月)、9月以降は未定

(4) 河川情報の資料収集・解析

河川に関する様々な情報（治水事業の重要性や制度・施策等）や資料を収集・整理し、幅広い普及や社会的な理解を促進するための的確な情報発信方策について検討し、広報資料を作成いたします。

(5) 河川行政史に関する調査

「個人の記憶を、共有の記録に」との考え方の下で、過去の河川行政における出来事などに関して、収集した資料の整理、当時の担当者へのインタビュー等を含む資料をとりまとめます。

平成31年度も、過去の河川行政における重要な政策決定の経緯等に関する記録を作成し、その成果を広く普及していきます。



「河川オーラルヒストリー」

2 河川関連キャンペーン（「川の日」キャンペーン、日本水大賞、水防演習、河川愛護月間、水の週間等）への参画及び支援を行い、安全かつ快適で自然豊かな河川を実現するための啓発活動を広く一般に向けて行う事業【キャンペーン事業】

(1) 「川の日」キャンペーン

「川の日」実行委員会が実施する「川の日」記念行事を事務局として支援します。

昨年に引き続き、「川の日」の7月7日頃に、商用のWebサイトにバナーを掲載し、これにリンクしてコンテンツを広く一般に提供、また、他団体との連携を図るとともに、「川の日」についての啓発も兼ねた冊子等を制作・配布するなど「川の日」の啓発を図ります。



(2) 水防演習に参画

全国の会員の皆様のご賛同とご支援を得て、6月の水防月間に向け各地で開催される水防演習に参画し、一般の方々の水防対策及び防災意識向上のためのキャンペーンを実施します。

(3) 河川関係キャンペーンに参画

河川愛護月間、水の週間のキャンペーンに参画します。



配布したパンフレット

3 河川に関するセミナー、シンポジウム、研修等の開催及び支援により、専門的知識の普及や人材育成を行う事業【研修・セミナー事業】

(1) セミナーの開催

水防に関する制度・法律等をテーマにした「水防研修」、河川管理・訴訟等をテーマにした「河川管理研修」、河川計画・技術等をテーマにした「河川講習会」を開催し専門的知識の普及を図ります。これらの開催にあたっては、ホームページへの掲載等により参加者を広く公募するとともに、関係機関・団体等に対し広報活動を行い周知の徹底を図り参加者の拡大に努めます。

また、平成31年度から新たに、河川やダム現場において施設等を直接見ながら河川に関する知識や技術力を向上させることを目的とした「現場研修会」を開催します。

- ・水防研修 平成31年 4月18日(木)～19日(金)
- ・河川管理研修 平成31年 10月3日(木)～4日(金) (予定)
- ・河川講習会 2020年 1月27日(月)～28日(火) (予定)
- ・現場研修会(2回) (未定)

(2) 地域河川管理技術向上への支援

河川管理施設の老朽化、行政機関における河川管理に携わる技術者数の減少等が進行する状況の中で、河川の有する機能を適切に保全していく取組みが重要になってきています。そのため、河川の維持管理に関する専門技術を認定する「河川技術者資格制度」の運営を支援します。

4 河川に関する功労者表彰、コンクールの実施及び支援により、不特定多数の利益の増進に寄与する諸活動等を顕彰する事業 [表彰・コンクール事業]

(1) 河川功労者表彰

昭和 24 年に制度を創設して以来、治水、利水、環境の観点はもとより、歴史・文化、河川愛護、国際貢献、学術研究、地域振興等の観点から、広く社会に対して功績のあった方々や団体に対する表彰を行ってきました。

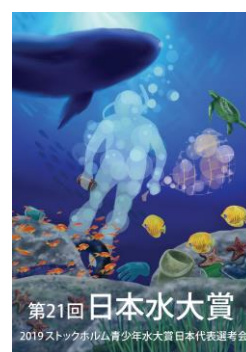
平成 31 年も定時社員総会において表彰を行います。

(2) 日本水大賞・日本ストックホルム青少年水大賞

日本水大賞委員会（名誉総裁：秋篠宮殿下）が主催する活動の事務局を引き続き務めます。

第 21 回日本水大賞・2019 日本ストックホルム青少年水大賞の表彰式及び受賞活動発表会については、6 月 25 日に日本科学未来館で行う予定です。

また、2019 日本ストックホルム青少年水大賞の大賞受賞者を、8 月にスウェーデンの首都ストックホルムで開催される国際コンテスト「ストックホルム青少年水大賞」に日本代表として派遣します。



第 21 回日本水大賞ポスター

第 22 回日本水大賞は「川の日」である 7 月 7 日に、2020 日本ストックホルム青少年水大賞は 4 月 1 日に、それぞれ募集を開始する予定です。なお、第 22 回日本水大賞の募集にあたっては、近年の大規模水害の多発傾向を踏まえ、「水防災」分野に重点を置いた応募数の増加に努めることとしています。

5 河川に関する図書等の刊行等 [収益事業]

「河川事業関係例規集 2019 年度版」及び河川関係の法制度・事業・諸元等の最新の各種データをコンパクトに取りまとめた「2019 河川ハンドブック」を刊行し販売します。

6 会員活動への助成、会員への情報誌の配布、河川関係諸団体の活動への支援 [会員活動助成等事業]

(1) 会員活動への助成

会員の親睦、交流及びサークル活動をより一層推進させるため、現在 13 の府県単位で設立されている会員組織の活動を支援します。

また、各地域において、会員が川をテーマにした自主的な研究や地域活動への参加を行うサークル活動に対して、その経費の一部を助成します。

(2) 会員への情報誌の配布

会報「河川文化」（平成 10 年 4 月創刊：年 4 回発行）は、「川における様々な文化」をテーマに全国各地からの情報を発信する会員向けの情報誌です。

さらなる内容の充実を目指すとともに、図書館等への配布により多くの方々活用できるようにします。

＜平成 31 年度 特集計画＞（予定）

第 86 号	2019 年 6 月号	「北海道」
第 87 号	9 月号	「琵琶湖」
第 88 号	12 月号	（未定）
第 89 号	2020 年 3 月号	（未定）



会報「河川文化」（H31. 3）

昨年度から、既刊の「河川文化」のダウンロードも可能とし（従前は閲覧のみ）、サービス向上を図っています。

(3) 河川関係諸団体の活動への支援・協力

河川に関係する諸団体が行う公益的な活動に対して、支援・協力します。

7 その他（会員サービスの拡充）

これまでも会員サービスの拡充に努めてきたところですが、平成 31 年度から、新たに 1 種正会員（地方公共団体等）を対象として、インターネットを通じて月刊誌「河川」の最新号を含む全記事のデータベースを利用し、検索・購読・ダウンロードすることが可能となるようにします。